

研究主題

「わかった・できた」を感じることができる教育的支援の工夫
～桃二 ユニバーサルデザイン～

研究構想図

視覚化

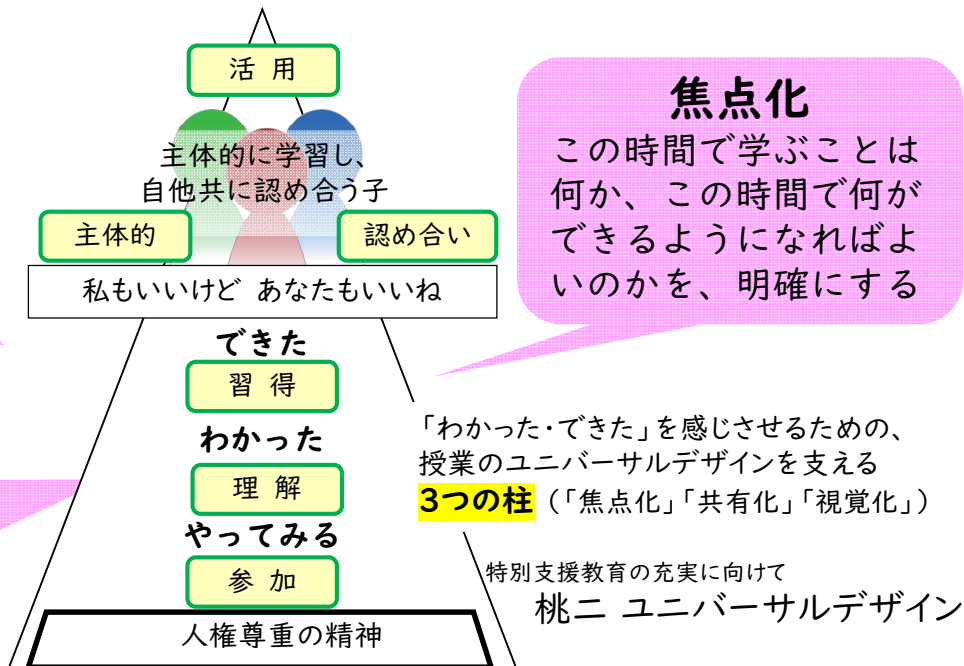
伝えたいことを視覚的に伝える

焦点化

この時間で学ぶことは何か、この時間で何ができるようになるればよいのかを、明確にする

共有化

学習の課題や良い点や問題点を話し合い、全体のものにする



「刺激量の調整」、「ルールの明確化」、「構造化」、「自他共に認め合う場づくり」

学級経営・環境面の桃二 ユニバーサルデザインの4つの柱

特別支援教育校内委員会

- 一人ひとりの児童のアセスメント
- T式ひらがな音読支援 (P2)
- 多層指導モデルMIM読みのアセスメント (P3)
- 支援レベル判定
- ニーズに応じた支援
- 特別支援教室での指導

研究推進委員会

- 「やってみる」「わかった」「できた」を達成する授業のユニバーサルデザイン (P4～6) (ユニバーサルデザインの視点での授業改善 「焦点化」「共有化」「視覚化」)
- 主体的に授業に参加する、自他共に認め合う学習環境のユニバーサルデザイン (P7) (刺激量の調整、ルールの明確化、構造化、自他共に認め合う場づくり)
- アセスメントをもとにした授業研究 (中野区小学校教育研究会 特別支援教育部「ほんとうのわたしを見つけて」)
- 「継次処理」と「同時処理」を踏まえた教材研究
- 保護者と合意形成した合理的配慮、環境整備

ICT活用

- タブレットPCを使った文字打ち
- 電子黒板での視覚的提示
- デジタルカメラでの板書撮影

入学委員会

- スタートカリキュラム作成
- 保幼授業参観
- 就学時健康診断面接

特別支援教育校内委員会での取組

低学年の「読み」の支援に重点を置く

- ・「読み」は、全ての学習につながる基礎
- ・読めないと、教科書や黒板、プリント、テストに書いてある内容がわからない・・・学習意欲の低下、全ての学習が分からなくなってしまう可能性がある。



低学年の段階で、読みのつまずきを発見し、児童を早期に支援できる体制を整えることが大切！！

① T式ひらがな音読検査（1年生）

画音音読検査 記録用紙
氏名： _____ 番号： _____ 書 検査日： ____年 ____月 ____日
(読めばし、読み取りX、自己修正△)

わ	べ	ぶ	ゆ	る	お	は	べ	け	ば
す	み	む	で	ぼ	せ	め	や	ぜ	て
た	ざ	だ	あ	き	げ	び	ぎ	ろ	か
ぶ	よ	ほ	が	の	ふ	つ	こ	ん	を
ち	ぞ	ら	く	ち	ど	づ	ひ	れ	う

1分以内に読み終わった場合は時間を記録 () 分 () 秒

1分以内	1分以内	1分以内	1分以内	1分以内	1分以内	1分以内	1分以内	1分以内	1分以内
読み取った文字数(A)	読み取った文字数(B)	読み取った文字数(C)	自己修正△	読み取った文字数(D)	読み取った文字数(E)	読み取った文字数(F)	読み取った文字数(G)	読み取った文字数(H)	読み取った文字数(I)
合計									

ランダムに配置されたひらがなを1分間にどれだけ読めるか検査をする。

41	31	21	11						
わ	べ	ぶ	ゆ	る	お	は	べ	け	ば
す	み	む	で	ぼ	せ	め	や	ぜ	て
た	ざ	だ	あ	き	げ	び	ぎ	ろ	か
ぶ	よ	ほ	が	の	ふ	つ	こ	ん	を
ち	ぞ	ら	く	ち	ど	づ	ひ	れ	う

児童の読みの実態を把握し、ひらがなを習熟度別に指導する。
6月、11月、2月の年3回実施し、児童の変容を見ていく。

「通常の学級における個別指導 ーひらがなの学習から児童を支えるー」
平成29年3月 東京都教育委員会

② 多層指導モデルMIM（1・2年生）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ

特殊音節に焦点を当て、文字や語句を正しく読んだり書いたりすることを目指して行うもの。
月に1回実施をしている。

5-2	7	6	5	4	3	2	1
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ
バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ	バナナ

1年生 授業実践
国語科 「まちがいをなおそう」



なまえ		みなおしポイント	〇ちようせんじよう 1きのう、わたしわ あきの ものお 見つけに こうえんえ いきました。	2 こうえんわ、どんぐりが ありました。	どんぐりお ひろつて、いええ かえりました。
		ひとやもの は もの を ばしよ			

「できる」ための工夫

「できる」

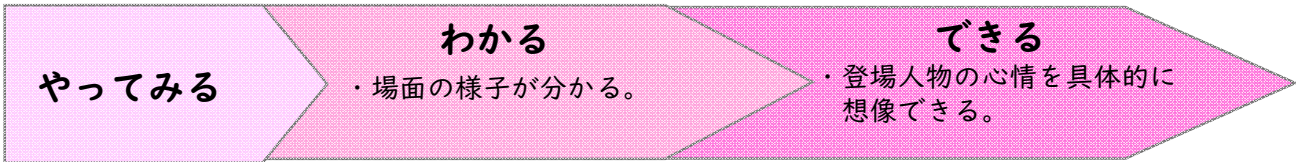
- ・間違いを直すことができる。
- ・正しい文を書くことができる。

視覚化・共有化
見直し欄や既習事項を示す。

↓

ワークシートや掲示物を見ることで、自分の力で間違いに気付いたり、正しい文を書いたりすることができる。

2年生 授業実践
国語科 お話を読んで、しょうかいしよう「スイミー」



「できる」ための工夫

「できる」

- ・登場人物の心情を具体的に想像できる。

視覚化
興味関心を引くことができる写真や心情メーターを提示する。

↓

登場人物が見たものを具体的にイメージすることで、登場人物の心情がどのように変化していったか想像することができる。



中学年実践

目指す児童像 「主体的に学習し、友達のおよさや違いを認める子」

3年生 授業実践

国語科 「修飾語を使って書こう」

やってみる

わかる

文の構成、主語と述語の関係、
修飾と被修飾の関係が分かる。
・文が表している状況が分かる。

できる

・修飾語を使って分かりやすい
文が書ける。

「やってみる」ための工夫

「やってみる」
修飾語を使って分かりやすい文を
書く。

共有化

3人グループで課題に取り組む。

友達の文を読むことで、既習事項の
確認を児童同士で行うことができ、
安心して本時の課題に取り組むこと
ができる。



4年生 授業実践

図画工作科 「動き」を描こう

やってみる

わかる

・自分の思いを何を使って
表すかが分かる。

できる

・動きを表すことができる。



「わかる」ための工夫

「わかる」
自分の思いを何を使って表すかが
分かる。

視覚化

興味関心を引く課題提示をする。

動きのある映像を見ることで、児童
は描きたい動きを自ら決めることが
でき、それにあつた材料の選択が分
かる。

5年生 授業実践

算数科 「形の大きさも同じ図形を調べよう」（合同な図形）



「できる」ための工夫

「できる」
合同な三角形のかき方を三角形の構成要素に着目して説明できる。

視覚化
「使う用具」、「辺や角の場所」、「辺や角の大きさ」をカードにして、カードを並び替えながら手順を説明する。

「頂点Aを確定したいからコンパスで等しい点を探したい」など、構成要素に着目しながら作図できる。

6年生 授業実践

社会科 「縄文のむらから古墳のくにへ」



「やってみる」ための工夫

「やってみる」
当時の世の中の様子について考えたり調べたりする。

焦点化
資料を拡大したり、見る範囲を限定したりして、視点を明確にする。

児童は、どこを見ればよいのかがはっきりと分かり、安心して学習に取り組むことができる。



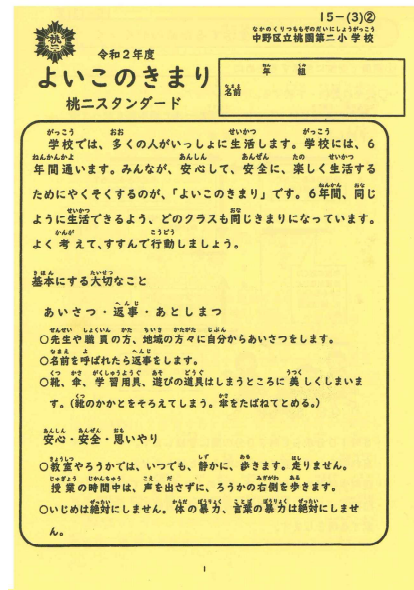
学級経営・環境面の 桃ニ ユニバーサルデザインの4つの柱

① 刺激量の調整



- 前面掲示物をなくす
- 掲示物の精選
- 机・椅子のテニスボール

② ルールの明確化



- 桃ニ スタンダード「よいこのきまり」
- 掃除や配膳の仕方

③ 構造化



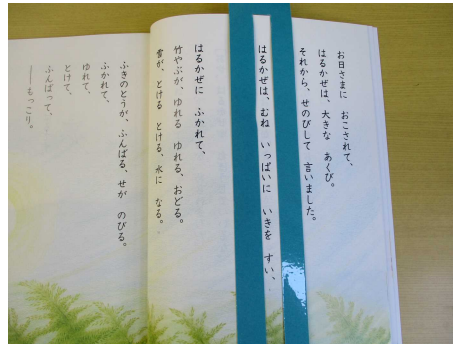
- 物の置き場所を決める
- 足型・待機線
- 靴箱シート

④ 認め合いの場



- 認め合いのできる掲示物の作成
- 学級活動の時間を使った、児童が認め合う時間の確保
- 友達の良さを伝え合う活動

T式ひらがな音読検査、多層指導モデルMIM共に、読みに困難さを抱える児童がいた場合は、家庭、特別支援教室と連携を図り、様々な支援を行っていく。



個別のアセスメント

どの文字が読めていないのか、担任が再度個別でアセスメントを行う。

「言葉遊び
ひらがな・カタカナカード」
販売元：すずき出版

リーディング
トラッカー
読んでいる部分を分かりやすくする用具の貸し出し。

ひらがなカード
ご家庭に貸し出し、家庭学習でも読みの練習を行ってもらう。



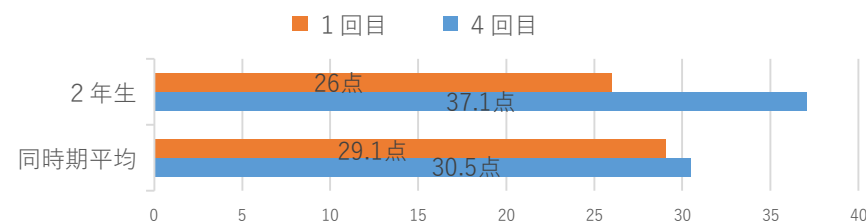
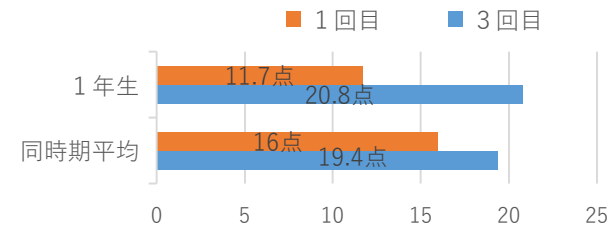
学級での指導

かきかきタイム・・・朝学習の時間に、濁音・半濁音・拗音・撥音・促音・長音・拗長音などの言葉のプリントを行う。

よみよみタイム・・・国語の授業の初め5分間で、ひらがなカードのフラッシュカード、言葉集め、集めた言葉に動きを付けて読むことなどを繰り返し行う。

多層指導モデルMIMの結果

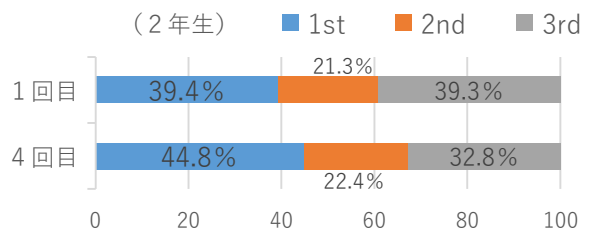
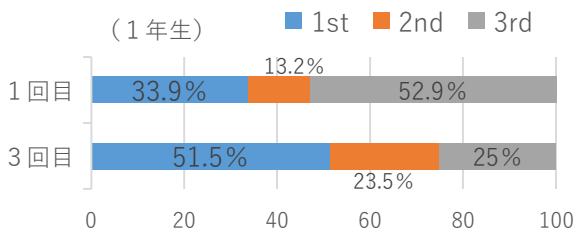
平均点（70点満点）



考察
1年生、2年生共に、1回目は同時期平均を下回っていたものが、3、4回目には同時期平均を上回った。また、ステージ別の変容から分かるように、1年生は、支援が必要な3rdステージの児童が大幅に減り、1stステージの児童が大幅に増えた。一方で、2年生は、ステージ別での大幅な変容があまり見られなかった。

このことより、「読み」へのアセスメントは、早期に行う方がより効果的であることが考えられる。引き続き、正しい児童の見取りと共に、適切な支援を行い、児童の「読み」の力をつけていきたい。

ステージ別変容



成果と課題

【成果】

- ・特別支援が必要な児童を含む全児童が、「わかった」・「できた」を感じることができたための、桃二ユニバーサルデザインを全教職員で考えることができ、授業改善につながった。
- ・校内アンケートにおける「色々な友達の良いところを見付けているか」の項目で「とてもそう思う」・「そう思う」と回答した児童が90%を超えた。
- ・特別支援教育の校内体制が整い、児童の困りの早期発見、的確な支援の話し合いができるようになった。

【課題】

- ・全児童が「わかった」・「できた」を感じるためには、授業・環境面でのユニバーサルデザイン化をこれからも続けると同時に、個別支援の充実を図る必要がある。
- ・全ての教職員が特別支援教育に対してさらなる理解を高めるために、巡回指導教員との連携を密に取り合うことが必要である。

謝辞

ここに、令和元・2年度中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校としての研究「『わかった・できた』を感じることができ教育的支援の工夫 ～桃二 ユニバーサルデザイン～」の研究成果をまとめることができました。ご指導いただいた先生をはじめ、関係の皆様にお礼申し上げます。特に、中野区教育委員会教育長入野貴美子様、中野区教育委員会様には、本校教職員が特別支援教育について学び、ユニバーサルデザインの視点で授業改善に取り組むとともに、巡回校における特別支援教室の効果的な運営について研究を重ねる機会をいただきましたこと、誠にありがたく感謝申し上げます。

研究の成果をまとめ、今後の取組、新しい課題が教職員の中に芽生えています。教職員一同、これからも、子どもたちのために力を尽くす所存でございます。今後もお一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

校長

ご指導をいただいた先生方

本研究に携わった教職員